

ヒトの初乳に多く含まれる、乳幼児に重要な成分 ヒトミルクオリゴ糖 3品目の製造菌株が、 中国での安全性審査を通過 中国市場での発売へ、1段階目の審査をクリア。次なる審査の申請へ

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）の子会社である協和発酵バイオ株式会社（社長 神崎夕紀、以下協和発酵バイオ）は、HMO (Human Milk Oligosaccharide: ヒトミルクオリゴ糖) 3品目の製造に用いる菌株が、中国農業農村部（The Ministry of Agriculture and Rural Affairs of The People’s Republic of China, MARA）の安全性審査に合格したことを確認しました。

協和発酵バイオは、中国市場で粉ミルクに使用される成分として、2 FL(2'-fucosyllactose)、3 SL (3'-sialyllactose)、6 SL(6'-sialyllactose)3品目のHMOの発売を目指しています。中国市場でHMOを発売するためには、1段階目としてHMOの製造菌株の安全性審査に合格する必要があります。

今回、協和発酵バイオは、3品目それぞれの製造菌株の安全性審査を通過したことを受け、次なる審査への申請を進めています。

また世界各国での販売に向けて、FDA（米国食品医薬品局）へのGRAS^{※1}（Generally Recognized as Safe）通知や、欧州委員会への新規食品申請、アジア・オセアニア諸国での承認申請も開始しています。

協和発酵バイオは、2000年に世界で初めて^{※2}工業レベルで大量生産が可能なHMO生産システムを構築し、2022年11月には、タイに新設した工場でHMO3品目の商業生産を開始しました。今後、新規食品原料の申請が承認された国・地域で、順次上市していく予定です。

※1：GRAS=Generally Recognized as Safe Substances（一般に安全とみなされている食品物質）の略称

※2：Tetsuo Endo et. al.,Appl. Microbiol. Biotechnol. 53, 257-261（2000）

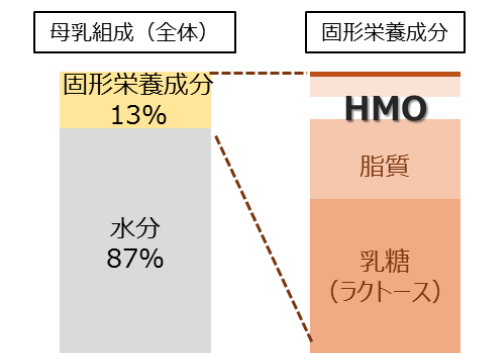
■「ヒトミルクオリゴ糖（HMO）」とは

母乳に含まれるオリゴ糖の総称です。母乳中の固形成分の中で、ラクトース、脂質に次ぐ、三番目に多い成分で、これまでに200種類以上のHMOが母乳から発見されています。牛乳や他哺乳類由来の乳にはほとんど含まれず、特にヒトの初乳に多く含まれることから、乳幼児にとって重要な成分であることが知られています。

HMO入り粉ミルク市場は欧米で継続的に伸長しているだけでなく^{※3}、人口増加が見込まれる中国・東南アジア地域でも消費拡大が期待されており、今後の年平均成長率は20%~30%程度^{※3}と予測されています。

※3：Barclays, “HMOs the next frontier of Infant Formula innovation”, March 2022

HMO入り粉ミルク市場の年平均成長率は、2022年~2027年にかけての予測値



協和発酵バイオは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します。